

## 第 25 期・第 3 回地球惑星科学委員会 IGU 分科会 IAG 小委員会議事録

日時：令和 4 年 12 月 21 日（水）13：00～14：30

会場：委員長宅（zoom によるオンライン会議）

出席者（敬称略・名簿順）：春山成子，小口 高，久保純子，齋藤文紀，長谷部徳子，岩橋純子，小口千明，柏谷健二，片岡香子，熊木洋太，倉茂好匡，小玉芳敬，島津 弘，早川裕弼，松倉公憲，目代邦康，若狭 幸，藁谷哲也：計 18 名

欠席者（敬称略）：鈴木康弘，羽田麻美：計 2 名

\*要出席委員総数 20 名のうち 18 名の出席により会議は成立した。

資料：

1. IAG Highlights（ニューズレター）2022 年 9 月号
2. IAG International Geodiversity Webinar フライヤー
3. IAG 2022/11/21 役員会議事録
4. AGU との交流に関するメモ
5. 2023 年 webinars 仮プログラム

議事：

（1）小委員会の定員について

定員を 25 名とした。5 名分の余裕がある。第 25 期は残りの任期期間が短いので、とりあえずこのままの委員とするが、加えることも可能なので必要に応じて対応。

（2）IAG の動静について

（3）今後の対応について

議題（2）と（3）は相互に関係しているためその都度議論した。

小口高委員長より、2022 年 9 月開催の IAG 総会（小口委員長と小玉委員が参加）および 2022 年 11 月開催の IAG 役員会の内容に基づき、次の通り報告がなされた。

第 10 回 IAG 国際地形学会議（コインブラ，ポルトガル）大会とその後の動静（資料 2，4）

・コインブラ大会の参加者：500 人 46 カ国であった。日本からは 7 名が参加した。

・IAG Honorary Fellowship 2022, IAG Brunsdan Medal 2022, IAG Early Career Medal 2022 表彰者についての説明がされた。日本人の受賞者は無し。

・役員の変更（任期：2022～2026）が行われた。副会長 3 名のうち 1 名に小口高委員長が選出された。小口副会長は他団体との渉外とウェビナーを担当する。

・2026 年にニュージーランドのクライストチャーチで本大会を開催する。IAG 役員会時には開催日に関する議論があった。早川委員から開催日等について 2 月 9～13 日でカンタ

ベリ大学を中心に組織を組んで運営されることが決まったとの説明があった。

- ・トルコ大会（地域大会）は 2023 年 9 月 12～14 日にトルコ、カッパドキアで開催する。総会も行われるが、今回は学術会議の代表派遣には応募しないことにした。

- ・ルーマニア大会（地域大会）は 2025 年に開催されるが、詳細は未定である。

- ・役員任期について、今期と次期の委員の任期に差が出ないように対応することになった。次の役員選挙は 2026 年 2 月の大会の時に行うが、役員交代は 2026 年 9 月になる。

- ・日本における日本地形学連合の行事（日本語での開催も含む）についても、IAG の後援をとるよう方向性が確認された。

- ・日本地形学連合の最近の活動について、IAG の後援となっていなくても IAG Highlights（ニューズレター）に載せるように働きかけることを確認した。早川委員に JGU の 11 月の国際シンポジウムと JGU 地形の学校の記事の作成を依頼した。

- ・IAG ウェビナーを 2023 年 3 月 1 日～7 日に行う（資料 5）。East and Southeast Asia の枠は 6 日 7:00～9:00 (UTC) で、日本の発表者等については小口委員長から候補者に打診する。

- ・The First 100 Geological Heritage Sites (IUGS) が選ばれた。IAG の提案の 3 つが最初のリストに入った。

- ・小口高 IAG 副会長ら 2 名の IAG 役員が 12 月開催の AGU に参加して IAG と AGU の関係を再構築するための議論を行った（資料 4）。AGU が IAG をあまり認識していないという現状を変える必要が指摘された。

- ・IAG の会計問題について柏谷委員から質問があった。小口委員長から、現在は法人化しており、会計は健全化していると説明があった。コロナ禍の影響で行事が行われなかったこともあり、2022 年の会費は全加盟国が免除された。

- ・毎年 10 月 6 日が International Geodiversity Day となった。今年は 10 月 11 日に IAG ウェビナーを実施した（資料 2）。

前回会議で小口委員長よりアジアでの IAG 未加盟国について情報共有を進めていくことを確認したが、いずれも十分なコンタクトが取れていないため次のような対応を取ることが確認された。なお、IAG 加盟には、学会や大学の学科、研究所の部門などが受け入れ団体となる必要がある。

- ・モンゴル：同国とのつながりがある長谷部委員・鈴木委員を通じて対応。

- ・ベトナム：同国とのつながりのある春山委員に相談しながらコンタクトを試みる。

- ・マレーシア：齋藤委員から紹介していただいた方と相談中。

- ・中央アジアについても情報を収集する。早川委員がタジキスタン、ウズベキスタン、キルギスと、島津委員がウズベキスタンとコンタクトがあるが、いずれも地形研究者ではない。キルギスについてもさらに情報収集を行う。

(4) その他の報告

・ 柏谷委員より，東アジア国際ワークショップ昆明大会はさらに延期となり，2023 年に対面で実施予定であることが説明された．以前了承された IAG の後援については再確認する．

次回の会議は地球惑星科学連合大会の頃の 5 月に開催予定．